

# パレスチナ人に対する犯罪で裁かれるイスラエル

## ラッセル裁判所におけるガザの残虐行為の証言

By Rania Khalek

Global Research, October 06, 2014

<http://www.globalresearch.ca/israel-on-trial-for-its-crimes-against-palestinians-testimonies-of-atrocities-in-gaza-from-the-russell-tribunal/5406624>



「ラッセル裁判所\*」がパレスチナ問題で、先月、ブリュッセルで緊急開廷し、イスラエルが“境界防衛作戦”（Operation Protective Edge）中に、包囲されたガザ地区で戦争犯罪行為を行ったかどうかを検証した。これは夏の期間の軍事攻撃で、500人以上の子供を含む2,100人以上のパレスチナ人が殺され、ガザが廃墟となった事件である。

\*Russell Tribunal は、英哲学者 Bertrand Russell と仏哲学者 Jean-Paul Sartre の提唱によって設立された、私的な国際戦争裁判所。

ジャーナリスト、目撃証人、法学者、および医者で、攻撃の期間に現場にいた人々からの証言を聞いた後、世界的に著名な知識人や国際法の専門家からなる 12人の陪審団が、イスラエルを、「戦争犯罪、人道に対する罪、殺人罪、抹殺、虐待、それに民族抹殺の奨励」を行ったとして有罪とした。

<http://www.russelltribunalonpalestine.com/en/sessions/extraordinary-session-brussels/meet-the-jury>

<http://www.russelltribunalonpalestine.com/en/sessions/extraordinary-session-brussels/press-corner/russell-tribunal-finds-evidence-of-incitement-to-genocide-crimes-against-humanity-in-gaza>

主流メディアも、進歩的メディアも、事実上これを無視したが、この裁判は、いわゆる国際共同体がしばしば拒否してきたことを行った点で、大きな意味をもつものだった。ラッセル法廷は、イスラエルを、パレスチナ人に対して行った犯罪で裁判にかけたのである。

## 民族抹殺（ジェノサイド）の奨励

<http://www.youtube.com/watch?v=SDNFdjwolaI>

ジャーナリストの [David Sheen](#) は、イスラエル社会内部における民族抹殺の奨励について、戦慄すべき発表をした。これは、イスラエル政府トップからの民族抹殺レトリックによって加熱されたリンチ集団が、“アラブ人に死を！”と叫びながらエルサレムの通りを行進するという結果となった。

<http://electronicintifada.net/people/david-sheen>

<http://electronicintifada.net/blogs/ali-abunimah/israeli-lawmakers-call-genocide-palestinians-gets-thousands-facebook-likes>

<http://electronicintifada.net/blogs/rania-khalek/merciless-israeli-mobs-are-hunting-palestinians>

Sheen の証言は陪審団に衝撃を与え、彼らは、外部者の介入と責任意識がないところでは、ジェノサイドの潜在性は高くなると結論した。

「2014年夏のガザ事件について、用いられた物理的かつ言辭的暴力の明らかなエスカレーションに照らしてみても、当法廷は、“1948 民族抹殺会議”に關与したすべての国家が、国連憲章の下において、民族抹殺行為の予防と禁圧のために、彼らが適切と考える行動を取る義務があることを強調する」と、[陪審団は最終裁定で懇請した](#)。

<http://www.russelltribunalonpalestine.com/en/sessions/extraordinary-session-brussels/findings>

「人道に対する罪のあり方が、これを犯しても罰を伴わず、民族抹殺への直接的で公的な奨励が社会全体に明白な状況にあつては、個人や国家がそのような条件を利用して、民族抹殺の犯罪を行う可能性は高いと認められる」と彼らは警告し、こう付け加えた。「我々が心から怖れることは、罰せられることもなく、重大な、繰り返される犯罪行為への制裁もない環

境では、ルワンダや他の集団的残虐の教訓が、今後も無視される可能性である。」

## 残虐きわまる処刑

<http://www.youtube.com/watch?v=iWrOuGNrzZc>

ジャーナリストの Max Blumenthal は、8月半ばの5日間の休戦後に、ガザで取材した戦争犯罪の証拠について強力な証言をした。

ブルーメンタールは、侵攻してきたイスラエル兵によって行われた、市民、医療従事者、兵士たちの残虐きわまる処刑について彼の記録した内容を、生々しく詳細に説明した。彼はまた、ガザの老人が、ヘブライ語が話せるとわかった後で、即時に処刑されたいいくつかの例を特に詳しく話した。これはイスラエル兵たちが、彼らの命令を理解できる者を誰でも殺すように命令されていることを伺わせるものだ。

ブルーメンタールは、彼の証言の書き写しをここに掲載している。

<http://www.alternet.org/world/israel-put-trial-war-crimes>

## 誘拐と人間の盾

[http://www.youtube.com/watch?v=xWQm8MO\\_dRI](http://www.youtube.com/watch?v=xWQm8MO_dRI)

ガザを拠点とするジャーナリスト Mohammed Omer は、ガザで目撃し報告した犯罪のほか、包囲下の日常生活がいかに過酷であるかを、陪審団に説明した。彼は、侵攻してきたイスラエル兵による即決処刑や、パレスチナの男たちを銃口で誘拐したことや、今は消されたしまった Khuzaa の共同農場で、パレスチナ市民が人間の盾として使われたことを話した。

<http://electronicintifada.net/people/mohammed-omer>

Omer は、ガザを脱出してこのセッションに出席した唯一のパレスチナ人目撃者だった。

「パレスチナ人権センター」長の Raji Sourani、および映画製作家の Ashraf Mashharawi も証言する予定だったが、エジプト軍が、Rafah 国境を通過しようとする 2 人を阻止したため出席できなかった。

## 意図的かつ組織的

<http://www.youtube.com/watch?v=JV2wNvKG6NY>

高名なノルウェイの医師 Mads Gilbert は、制圧されたガザ市の al-shifa 病院で働きながら目撃した、恐ろしい傷害の説明や写真を陪審団に提供した。これはイスラエルの一番最近の爆撃キャンペーンの最中のことで、2006年にギルバートがイスラエルの軍事攻撃中にガザで活動して以来、これが4度目になる。

ギルバートは、ガザの医療施設に加えられた破壊の概要を述べ、イスラエルの「パレスチナ市民社会への意図的で組織的な攻撃」による身体的損傷の手当てをしながら、命を危険にさらしながら働いた医療従事者たちへの賛辞を強調した。

全体的に見て、ラッセル裁判所に提出された証言（その全体はここで見られる）は、マックス・ブルーメンタールが言ったように、「民族抹殺を目標とする」ますます過激になった定住 - 植民国家による、ガザとその住民の意図的な壊滅という、明白な図式を証明するものである。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLBDtcbghfMdsKkGO9MFG5MPxC3s8gyGES>

ジェノサイドは一夜にして、あるいは真空の中で起こるものではない。警告のサインがあり、その多くがラッセル裁判所で指摘された。

イスラエルは過去 60 年以上にわたって、歴史的にパレスチナのものである領域で、人口統計的に操作されたユダヤの多数性を強固にし維持するために、パレスチナを破壊し消し去ろうとしてきた。

アメリカを始めとする国々が、無条件に大量の武器をイスラエルに供給し、国際舞台においてそのリーダーの責任を問わないということが続く限り、イスラエルのパレスチナ破壊は継続するだけでなく、強化されるであろう。したがって問題は、いったいこの残虐行為がどれくらいひどくならなければ、世界はこの狂気にストップをかけられないのか、ということになる。